

## 白市と伊原正三家住宅

### ■歴史と文化のまち

白市は戦国時代の文亀3年(1503)、平賀家が白山の頂上に城を築いたことを契機に、城下町としてつくられたまち。江戸時代になると人と物が行き交う商人の町として栄えていき、昭和初期頃まで、牛を売り買いする「牛馬市」がたち、まちもにぎわった。

丘陵状のまちに赤瓦(石州瓦)が連なる家並みと木々の緑のコントラストが美しい。今残っている一番古い町家が江戸初めの「旧木原家住宅」。明治、大正、昭和と各時代の町家が残っている。



### ■大正期の意匠建築－伊原正三家

伊原正三家住宅は白市中心部にある町家。

伊原正三氏が23歳の時に建設をはじめ、2年後の大正4年に完成させた。

趣向を凝らした意匠や伝統的な和風建築に当時の流行を取り入れた大正期ならではの特徴が表れている。巧みな職人技が隨所に見て取れ、この時代の地方大工の技術の高さを示している。



## 伊原正三家 文化庁登録物件

1915～1917(大正2～4)年にかけて建造

- **主屋** 木造2階建、瓦葺、建築面積289m<sup>2</sup>  
街路に北面して建つ入母屋造り妻入りの二階建てで、随所に趣向を凝らした造作を施す。入母屋の小棟を重ね、繊細な格子が並ぶ表構えが特徴的。
- **茶室** 木造平屋建、銅板葺、建築面積20m<sup>2</sup>  
敷地後方に建つ茶室は野趣に富む数寄屋意匠。
- **住宅門及び塀** 門:木造、瓦葺、間口1.6m  
塀:木造、瓦葺、総延長13m  
主屋の正面西側を区切る門及び塀は、放射状の格子欄間や楕円形窓に和風意匠の近代的な創意が表れている。



地図作成：白市景観形成委員会

<2018年文化庁登録有形文化財に登録>

## 伊原正三家住宅



広島県東広島市高屋町白市

## 主屋

### 粹なデザインの宝庫 趣向を凝らした意匠や巧みな職人技が随所に



美保の松原を描く欄間 砂壁に切り取られた富士を背景に、松林が表裏2枚の板を用いて立体的に表わす  
➡ 仏壇の上には扇に流水の透かし欄間



縁側の組子障子に透かし模様  
障子欄間の裏側には、砂壁でたなびく雲ともみじの葉が表現され、繊細な組子障子に陰影を与えている



繁格子窓 一枚石の上に、細部にまで意匠を凝らした格子窓が広がる



床の間の銘木 落とし掛けには枝つきの黒檀、つけ書院には鉄刀木(たがやさん)、床柱には天然しづらの杉丸太を使用



吹き抜け 玄関から入ると、広い土間の奥は二階まで吹き抜けている



放射状の天井 柱を傘の柄に見立てる形で一枚の板を少しづつ切り詰め、放射線状に張っている



床脇の円形の地袋 けやきの大きな一枚板に、円形に溝をきつためずらしい地袋



アシンメトリーの火灯窓  
寺院建築でおなじみの火灯窓をずらして半分に切っている



飾り瓦 桃や打ち出の小槌などが屋根を飾る



式台玄関 正門から入ると、庭の奥には社寺建築を思わせる玄関。奥の座敷へと続く。

## 茶室

敷地最奥に建つ茶室  
待合、手水鉢を敷石でつなぎ、野趣に富む数寄屋意匠

